

令和5年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センターふじみ苑

日時及び場所	参加者	
7月13日(木) 15:00～16:30 ぱれっと会議 室1	医師1名 民生委員2名 介護支援専門員1 名 生活支援コーディネーター2名 高齢者福祉課2名 高齢者あんしん相談センター4名 計12名	「高齢者の孤食について考える」 《ケース概要》 地域では、一人で食事をとっている高齢者が増えつつある。家族の為に食事を用意しない。孤食の問題は様々ある。1つ目は、食事の回数、量、栄養バランスが悪く、低栄養となり筋力が衰える事が考えられる。2つ目は、「嚥む力」「飲み込む力」が低下して食事が楽しめない。3つ目は、体重減少や活動量の減少が引き起こされる。4つ目は、ひきこもりの原因や精神的にふさぎこみやすくなる。以上、生活の質に大きく影響される。負の連鎖となる孤食に対する解決策が地域にたくさんあれば、介護予防に繋がっていくのではないかな。 《対応》 独居の方は、環境因子として孤食になりやすい。第2圏域ではぱれっとにおいて富士見みんなでプロジェクトが月一回不定期開催している。子ども未来応援センターが子ども食堂を定期開催している。子ども食堂は、もともとのベースは貧困家庭を対象としている。えぶりわん「たくちゃん食堂」、メモリードホールの「つるせ音楽おへそ食堂」がある。ボランティアの方が運営に携わり、Facebookで知らせている。地区社協では交流会を復活させている。学生ボランティアを巻き込んだり、地域食堂として高齢者が気軽に行けるような場があると良い。 《今後の課題》 今回の地域ケア会議課題から高齢者が通いやすい地域食堂(シニア食堂)を生活支援体制整備事業(第2層協議体)として立ち上げを検討する。
10月12(木) 15:00～16:00 ぱれっと会議 室1	医師1名 民生委員2名 介護支援専門員2 名 生活支援コーディネーター1名 高齢者福祉課2名 移動販売事業者1 名 高齢者あんしん相談センター4名 計13名	「買い物困難な方への支援」 《ケース概要》 地域で生活される高齢者の中には、身体的・精神的にスーパーまで行くのが難しい方も多くいらっしゃる。買い物困難な方へ、どのような支援ができるか、情報提供ができるのかを考える。 《対応》 介護保険で対応できている方は良いが、そうでない方もいる。地域の支え合いも不可欠になっている。宅配スーパーを利用している方もいる。第2圏域は坂の多い地域であることから、身体能力的に外出が困難な方がいる。そこで移動販売とくし丸よりサービス内容説明いただく。実際に第2圏域の地図を用いて、どこの地区がスーパーまで遠いのか、どこに困っている方がいるのかを話し合った。 《今後の課題》 ある一定の地域で困っているというよりは高齢やADLの低下により困る方がいるのではないかな。地域の助け合いや、移動販売、宅配サービス等、様々な社会資源を活用し、高齢者を支えていく。今後、新たな社会資源の開発も課題としてあげられる。買い物に困っている方に対して、民協とも情報共有しながら、とくし丸の情報提供もしていく。
1月18(木) 15:00～16:00 ぱれっと会議 室1	医師1名 民生委員3名 介護支援専門員1 名 生活支援コーディネーター1名 高齢者福祉課1名 福祉政策課1名 施設職員2名 高齢者あんしん相談センター4名 計14名	「地域における防災対策～それぞれができること～」 《ケース概要》 近年全国的に甚大な被害を及ぼす災害が起きている。第2圏域においては、特に水害のリスクが高い地域にある。地域とそこの中にある福祉施設とが協力体制を築いていく必要がある。それぞれの立場でどのような支援ができるのか、地域ぐるみで取り組める防災対策について考える。 《対応》 「洪水・内水ハザードマップ」と「避難行動要支援者登録制度のご案内」を配布・説明。 2年前の台風の時、避難所は他地域の方でいっぱいになり入れなかった。雨の中外へ出るのは嫌と言われ、建物の2階へと促した。福祉施設はソフト(専門職)とハードの資源がある。東日本大震災の時困ったのは電気がつかない事だった。現在は非常用電源設備・発電機を用意している。全ての方というわけにはいかないが、地域の方も受け入れられるようにしたい。透析の方は病院が準備し、人工呼吸器の方はメーカーがフォローするが、在宅酸素の方はどうするのか課題となっている。 《今後の課題》 地域の方と福祉施設職員がお互い顔を知っている方が良いので、一緒に防災訓練を行なえたら良い。予測できる災害の時は、避難行動要支援者登録している方には早めに呼びかけが必要となる。レスパイト入院や水害リスクの少ない地域にある施設へのショートステイも検討していく。